

# 九州大学の全学教育に消防本部職員が講師として協力 ～郷土、地域を守る防災リーダーの育成を目指して～

福岡県 糸島市消防本部

## はじめに

糸島市は、福岡県西部の糸島半島に位置し、東は福岡市、西は佐賀県唐津市、南は佐賀市と接しています。市北側には玄界灘に面した美しい海岸線が広がり、市南側には背振山系の山々が連なっています。そして、それらの中間部には糸島平野と呼ばれるなだらかな田園地帯が広がり、国道沿線を中心に市街地が形成されています。また、福岡市の中心部や博多駅、福岡空港にも直線でアクセスでき、交通利便性が高い地域のため都心部のベッドタウンとしての性格を持つ地域です。

また「糸島」の農畜産品や海産物は、県内外の多くの人たちから安全・安心な新鮮でおいしい食材として評価され「糸島ブランド」が定着しています。

さらに、海と山のレジャースポットとして、また、多種多様な工房や農畜産物・海産物直売所、遺跡・文化財などをめぐるドライブコースとして、テレビや雑誌などで「糸島」が広く紹介され、多くの人々が訪れています。

糸島市消防本部の管轄面積は216.15km<sup>2</sup>、管轄人口は約100,000人で、1本部、1署、3出張所、職員数100人の体制で消防業務に取り組んでおります。



糸島市消防本部では、東日本大震災をはじめとする、近年国内外で多発する自然災害により、防災意識が高まっているなか、地域防災や災害発生時に自らの身を守り、さらに人命救助の即戦力となる人材育成を目的として、九州大学と連携して、九州大学で開講された「全学教育少人数セミナー 地域を守る災害と防災の基礎知

識」において講師として協力し、学生に対して技術、判断力を身につける為の講義と実技訓練を実施しました。

## 1 講師協力の経緯

東日本大震災によって、地域防災の意義が改めて問い直されています。

糸島市消防本部管内の九州大学伊都キャンパスには、1、2年生だけでも5,000人を超える学生が学んでいます。

そこで、糸島市消防本部では、連携事業として「地域防災の人材育成講座」の開講を九州大学アジア防災研究センター長の塚原健一教授（国土計画・防災）と協議を行い、糸島市消防本部と九州大学が連携した全学教育（教養教育科目）少人数セミナーの開講が実現しました。

## 2 授業概要

九州大学前期講義（4月～7月）15コマ（1コマ90分）のうち、防災講話及び普通救命講習、消火訓練、救助訓練の実技を含む9コマ（学生発表のオブザーバー2コマを含む）を糸島市消防本部職員が担当しました。

受講学生の所属学部は教育、経済、歯学、工学、芸術工学、農学部と様々でした。

講義時間割

科目名	講師	コマ数
オリエンテーション	塚原教授 消防本部職員	1
世界の災害状況	塚原教授	1
基礎講話及び防災講話	消防本部職員	1
普通救命講習（実技）	消防本部救命士	2
地球温暖化と災害の状況	塚原教授	1
消火訓練（実技）	消防本部消防隊	2
福岡県総合防災訓練見学	塚原教授 消防本部職員	3
救助訓練（実技）	消防本部救助隊	2
発表「地域の安全を守るために必要なこと、自分が将来やるべきこと」	塚原教授 消防本部職員	2

## 3 講義内容(消防本部職員講師担当分)

### (1) オリエンテーション

講義の開講にあたり、学生に対し講義の概要説明を実施しました。

担当助教から担当職員紹介、授業の流れ、成績評価方法、受講条件、定員について説明が行われ、次に消防本部職員から消防本部が担当する講義、実技訓練の実施場所、概要、注意事項等の説明を行いました。

開講される教室や、実技訓練の安全管理上、定員を30名としていましたが、50名程度の学生が受講を希望しオリエンテーションに参加しました。

### (2) 基礎講話及び防災講話

#### 【主眼】

災害の種別、危険性を知り、防災の備え、自助、共助の重要性、災害に対し個人個人が危機意識を持つことを目的として、消防本部職員が学生に対し防災についての講話を行いました。

#### 【講話内容】

「防災の重要性。」「災害発生時には、第一に自らの命を自分で守る『自助』が重要であること。」「地震、津波、台風、大雨等、各種災害に対する準備や対処について。」「地域性、災害の形態により被害が大きく変わること。」「大災害は頻繁に発生しないが、そのことに対し『過信』をしてはならないこと。」「大災害発生時は『公助』には限界があること。」「災害発生時には、地域住民等のお互いが助け合う『共助』が重要であること。」「大災害が発生し、公助が不足した場合には、『緊急消防援助隊』という日本全国の消防応援制度があること。」について過去の災害実例等を用い講話を行いました。



消防職員による講話

#### 【成果】

東日本大震災の記憶も新しい学生達でも、実際に自らの身や、家族が災害にあった場合の自助の重要性、共助の必要性については切迫感がありませんでしたが、災害実例や、災害に出動する消防職員からの講話により、深い興味を持ち、学生の危機意識が高まっていました。

### (3) 普通救命講習

#### 【主眼】

大災害発生時は、同時に多数の傷病者が発生し、平時のように救急車を期待することは困難となり、自主的な救護活動が極めて重要となるなか、学生一人一人が救える命を救う知識技術の習得を目的としました。

#### 【講義内容】

応急手当の重要性、心肺蘇生法の手技、自動体外式除細動器(AED)の使用法、異物除去法、止血法について訓練用人形を使用し講義、実技訓練を行いました。

受講者には「普通救命講習修了証」が交付されました。

#### 【成果】

災害時には自らが率先して救える命を救うという意識を持ち、意欲的に実技訓練を行っていました。



普通救命講習

### (4) 消火訓練

#### 【主眼】

大災害等で多発的に発生した火災に対し、公的機関の消火活動は困難となり、自主的な消火活動が極めて重要となる意識を持ち、地域の小型消防ポンプや消防ホースにより消火活動を行える技術の習得を目的としました。

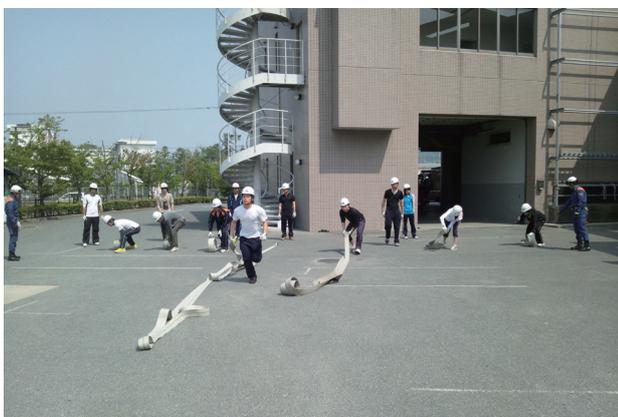
#### 【講義内容】

消防用ホースの搬送、展張及び延長、消火方法(放水体験)、小型消防ポンプ運用を実際に体験し、火災消火

を実技により学びました。

### 【成果】

火災消火には危険が伴うことを前提とし、大災害発生時に公的機関の到着を待つだけでなく、自らの力で危険のない距離から放水を実施することにより延焼防止が図れ、自らの住む地域が守れることを身をもって感じています。



ホース延長訓練



放水訓練

## (5) 福岡県総合防災訓練見学

### 【主眼】

メディア等の情報のみで見た公的救助を、実際の活動として見ることにより、災害時に公的救助がどのように

活動し、住民を守るのか体感することを目的としました。

### 【講義内容】

平成25年度福岡県総合防災訓練に出向し、福岡県の公的救助（福岡県警、自衛隊、海上保安庁、福岡県内消防等）による大災害発生時の災害救助活動を見学し、同行した消防本部職員から訓練の説明を受けました。

### 【成果】

各機関の公的救助活動を目の当たりにし、災害発生時に公的救助により迅速な救助が行われる安心感や、公的救助機関の人命救助に対する熱意を感じていました。



福岡県総合防災訓練見学

## (6) 救助訓練

### 【主眼】

大災害等で家屋が倒壊、下敷き等の救助事例が多発生した際、消防署等の公的救助は全ての災害現場に提供されることは困難となる事を踏まえ、そのような場面で学生一人一人が共助により救助できる知識技術の習得を目的としました。

### 【講義内容】

準備可能な一般的資器材（ノコギリ・チェーンソー・金てこ）を使用した地域住民による救助法（てこの原理による重量物排除、木材切断）を習得し、倒壊家屋等から要救助者を救出することや、要救助者の搬送方法（一人搬送、二人搬送、抱え搬送等）、簡易担架作成、搬送を実技により学びました。

また、「自主避難訓練」として、通常では数十秒で避難が可能な場所であっても、目隠しにより視界を奪われることによって避難に時間がかかることを体感しました。

最後に、人命救助に対し消防本部救助隊がどのように



チェーンソーによる木材切断



視界が無い状態での避難訓練



搬送訓練



学生による倒壊建物からの救出訓練

訓練しているのかを見学しました。

**【成果】**

倒壊建物や重量物の排除は一般的資器材で可能であることや、効率の良い搬送法を学び、お互いが協力することにより、一人でも多くの命が救えることを学びました。

**(7) 学生発表 (消防本部職員はオブザーバーとして参加)**

**【講義内容】**

学生が本講義 (教授講義、消防本部講義・実技訓練) を受講し「地域の安全を守るために必要なこと、自分が将来やるべきこと」をテーマに、一人3分程度を持ち時間としてパワーポイントを用いて発表を行い教授、助教、消防本部職員が評価を行いました。

**【成果】**

発表を通して、学生が本講義・実技訓練により人命救

助の重要性の再認識、災害発生時に自助および共助を実践し、地域を守るという防災意識の高まりを感じました。



学生発表

## 4 講師として学生に対し講義をして

今回、講師として講義を実施して何より、学生の防災に対する意識の高さに驚きました。

オリエンテーションでは定員をはるかに超える50名程度の学生が参加し、「定員は30名」「講義全日程に参加できる者」という受講条件を発表すると33名の学生が受講を希望しました。教授と消防本部が協議し「33名全員受け入れ可能」を発表すると拍手が湧くほどの熱心さでした。

基礎講話及び防災講話においても、過去の災害実例や、実災害に出動している消防職員の講義を終始真剣に受講していました。

普通救命講習、消火訓練、救助訓練の実技訓練では、最初は緊張により消極的であった学生が、時間を追うにつれ積極的になり、救助訓練の後半に実施した「学生による倒壊建物からの要救助者救出」ではこれまで講義で学んだことを活かし、「要救助者への対処」「てこの原理による重量物の排除」「チェーンソーによる木材の切断」を学生同士が協力し、お互いに救出案を出し、大きな声を出して実施していました。

講義全日程終了時の学生発表では、「地域の安全を守るために必要なこと、自分が将来やるべきこと」をテーマに学生一人一人が、教授、消防本部職員の講義を受講し、実技訓練を経験して地域防災について自らができることを考察し発表しました。

主な発表内容は、「災害に対し適度に怖がり、備える事の重要性」「災害発生時には自らの命を第一に守ること」「大規模災害時の共助の大切さ」「学生、地域住民にも救出活動や救命処置は多くの命を助ける為には必要不可欠であること」「地域防災の為には防災に対する知識を有することが必要であり、今回受講した知識経験を一人でも多くの人に伝え、災害発生時の地域防災力を高めること」「大学で得た知識を活かし災害に強い建築物、都市計画をつくること」等で、今回の講義で何を学び、何が重要であるか、地域防災の為に何ができるか思考を凝らし発表して、本講義の理解度や有効性、学生の更なる防災意識の向上、学生一人一人が地域防災の重要な即戦力であることを実感しました。

## 5 学生の声

「今回の講義や実技は、いずれも有事の際には大変役に立つもので、大学入学後間もない時期にこのような経験ができたことは貴重であり、今後の学生生活に活かし

ていきたい。」

「講義や実技の内容が充実しているだけでなく、それらを担当していただいた消防職員の方々は皆、熱意に溢れるだけでなく、常に分かりやすく、また印象に残りやすいような教え方をして下さり、とてもスムーズに内容を理解することができました。」

「実技に重きを置いた授業構成は、有事の際に最も問われる現場の実行力を訓練する事ができ、非常に有意義に感じました。」

「今回の講義・実習で得られた知識や技術は平凡に学生生活を送る上では得難いものでした。」

「来年度以降の講義では、私の後輩たちにも今回のように、なるべく多くの学生に実践的な知識と経験を身につけられるような、熱い指導をお願いします。」

「消防本部の方々の、市民の安全を守るための日夜絶え間ない努力と仕事ぶりは決して忘れず、今後地域防災に貢献するうえでの原動力としたいと思います。」

## 6 終わりに

消防職員にとって住民の生命、身体、財産を守ることは最大の任務です。

しかし、近年、世界や日本各地で発生している大規模災害時に我々消防職員だけで住民を守ることはとても困難となります。そのような時に地域住民を守れるのは、地域住民自らの力なのです。

大規模災害発生時に自らの命を守る「防災意識」は全国的に高まっています。しかしながら大規模災害の規模によっては公的機関の救助に限界があるという事実はあまり知られていません。

「自助」の重要性はマスコミやメディアにより広く知らされていますが、「共助」の重要性、方法等は認知が低いのが現状です。

「共助」の必要性、重要性を広く周知し、多くの人が理解することにより、災害発生時に救える命が救われ、防ぎ得る人的被害を防ぐことにより住民の被害が軽減されます。

災害発生時に「共助」の大きな力となり、即戦力となるのは若者です。その即戦力となる大学生が災害時の対応、防災の重要性を理解し、広めることで地域を守る防災リーダーが多く生まれます。

今後も、学生に「自助」「共助」の重要性を伝え、多くの防災リーダーとなる人材を育成し、災害に強い地域、国づくりを目指し、平成26年度以降も継続して実践していきたいと考えています。